【実践報告】

学生のキャリアに対する関心を早期に高める
―2023 年度 BMS(Bunkyo Management System)実施報告―

棚田　裕二　　河内　佑美　　山地　恭子　　中嶋　一恵
Yuji Tanada　Yumi Kochi　Kyoko Yamaji　Kazue Nakashima

キーワード　BMS(Bunkyo Management System)　学生　キャリア教育

本稿は、2022 年度より実施しているキャリア教育を、2023 年度より、人間福祉学科 BMS(Bunkyo Management System)の一つとして「学生のキャリアに対する関心を早期に高める」ことを目的として実施した実践報告である。結果、各専門職等の講話や就職の決まった先輩の話を聴くことによって、それぞれの領域に対する興味や関心が高まるとともに、領域、職種および事業所の選択に影響を与えていたことが読み取れた。

Ⅰ．はじめに

広島文教大学人間科学部人間福祉学科(以下、本学科とする)は、Bunkyo Management System（以下、BMS とする）の取り組みテーマとして 2019 年度より「就職支援に対する満足度向上のための施策の策定と実施・検証」を実施している(河内ら、2023)。小松ら(2016)が述べている通り、福祉系大学に所属する学生にとって、ボランティア体験や各実習体験は、就職意識を高め、就職先を決める要因となる。しかし、今回の取り組みで主に対象とした 3 年生は、COVID-19 感染症の拡大によって、本学科へのボランティアの募集件数も少なく、実習にいたっては中止や中断、それにともなう学内での実習への切り替えなどの対応を余儀なくされた。しかし、こども白書(こども家庭庁、2023)によると、キャリア教育・職業教育を充実させていくことが重要であるとし、「職場体験やインターンシップは、こどもや若者が教員や保護者以外の大人と接する貴重な機会となる。異世代とのコミュニケーション能力の向上が期待されること、こどもや若者が自己の職業適性や将来設計について考える機会となり、主体的な職業選択の能力や職業意識の醸成が促進されること、学校における学習と職業との関係についてこどもや若者の理解を促進し学習意欲を喚起すること、職業の現場における実際的な知識や技術・技能に触れることが可能となることから、生徒、学生には極めて高い教育効果が期待される」とされ、本学科のような福祉系大学においても同様であるといえる。そこで本学科では、感染対策を講じながらのキャリア教育・職業教育を学生にとって充実したものにすることを第一に考え、 我々は現役の福祉専門職をゲストスピーカーとして招くかたちで講義形式のキャリア教育を企画した。

これを踏まえ、2023 年度は、前述した実践を継承発展させる取り組みとして、「学生のキャリアに対する関心を早期に高める」ことを目的とした学科 BMS を実施することになった。そのため、2022 年度

に学科 BMS とは別に当時 2 年生を対象に行っていた、現役福祉専門職従事者による講義を継続して行うことにした。これは、多様な福祉現場の実際の様子や業務内容、やりがいなどの話をしてもらうことで、福祉の仕事に対する学生の理解を深めることを目的に行っていたものである。ちなみに、2022 年度の講話は、学生にどのような専門職の話を聞きたいのかアンケートを実施し、希望の多かった専門職を選定して、5 回実施した。実施方法については、当時 2 年生のプログラム育心の時間を活用した。なお、プログラム育心とは、本学の教育理念である「心を育て人を育てる」に基づいて展開されるプログラムである。このプログラムは、月に 1 回程度、教育理念を現実のものとするために、学科学年ごとに開講するものとされている。福祉の仕事に対する理解を深めることを目的に企画したため、2 年生だけでなく、他学年の学生にも周知し、参加を促した。2022 年度は、1 回目(6 月)医療ソーシャルワーカーの仕事、2 回目(6 月)行政における社会福祉士の仕事（生活保護、児童相談所）及び高齢者支援における社会福祉士の仕事、3 回目(7 月)スクールソーシャルワーカーの仕事、4 回目(12 月)高齢者施設における相談員の役割について、5 回目(2023 年 1 月)地域定着支援センターの仕事の内容であった。

この流れを受けて、2023 年度は 2 年次からの継続として 3 年生を対象に、前年度とは異なる福祉専門職を招いて同様の取り組みを行い、実施後アンケート調査を行った。本稿は、こうした 2023 年度の活動を報告するものである。そして、各回で実施したアンケート結果をまとめ、学生のキャリアに対する支援のあり方を検討する基礎資料とし、そこから見えてくるキャリア教育における今後の課題を明らかにすることである。

Ⅱ．実施方法および内容

1. 対象学生と実施方法

本活動は、2023 年度人間福祉学科 3 年生のプログラム育心の時間にて実施した。そのため、主な対象学生は 3 年生であったが、実施にあたり人間福祉学科各学年にも周知し、参加を促した。

なお、2023 年度においては、以下の各種福祉専門職や福祉関連施設の管理者などを招き、それぞれの仕事の内容を説明してもらった。また、第 6 回目については、すでに就職が決まっている 4 年生に就職活動について報告をしてもらった。

・第 1 回目　6 月 7 日(水)13：10～13：55

　内容：福祉・介護業界におけるキャリア形成について(起業など)

　講師：株式会社 A 代表（起業家・経営者）

・第 2 回目　7 月 5 日(水)13：10～13：55

　内容：発達障害のある方に対する支援(発達障害者支援・就労支援など)について

　講師：B 県発達障害者支援センター長

・第 3 回目　7 月 12 日(水)13：10～13：55

内容：障害者就労支援について

講師：社会福祉法人C作業所利用者および職員

・第4回目　10月25日(水)13：10～13：40

内容：都道府県社会福祉協議会の仕事

講師：D県社会福祉協議会職員

・第5回目　11月22日(水)13：10～13：55

内容：児童養護施設の仕事について

講師：児童養護施設E職員

・第6回目　12月20日(水)13：10～13：55

内容：4年生の就職活動報告会

報告者：2023年度人間福祉学科4年生

2. 実施後アンケート

(1) アンケートの手続き

毎回実施後にアンケートを実施した。アンケートの作成にMicrosoft　Formsを使用し、調査用のQRコードを作成した。参加学生に協力依頼文書と口頭による説明をしたうえで、回答者自身で依頼文書に記載されているQRコードをスマートフォンまたはタブレットを使って読み取り、オンライン上での回答を依頼した。

(2) 調査票作成の手続きとアンケートの質問内容

BMS担当である筆者らが議論を重ねて、質問項目を作成した。質問内容は以下の通りである。

① 受験（取得）予定の資格について（複数回答可）

社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、保育士、予定資格なし

② 現時点で関心のある福祉の仕事領域について（5件法）

現時点で関心のある福祉の仕事の領域について、「全く興味(関心)はない」「興味(関心)はない」「どちらともいえない」「興味(関心)がある」「とても興味(関心)はある」の各項目で5件法にて尋ねた。尋ねた領域は、子ども領域（保育所・児童養護施設など）、障害領域（障害時福祉施設・障害者福祉施設など）、高齢者領域（高齢者福祉施設など）、保健医療領域（医療機関のソーシャルワーカー：MSW・PSWなど）、地域福祉領域（社会福祉協議会・地域包括支援センターなど）、その他（一般就職を含む）である。

③ 実習経験をについて（複数選択可）

ソーシャルワーク実習、介護実習、保育実習、経験なし

④ 今回の育心プログラムは、就職活動を行う上で役に立ったか（5件法）

それぞれの育心プログラムは、就職活動を行う上で役に立ったかについて、「全く役に立たなかった」「役に立たなかった」「どちらともいえない」「役に立った」「とても役に立った」の各項目で5件法に尋

ねた。尋ねた内容は、領域の選択、職種の選択、事業所の選択である。

⑤ 聞いてみたい領域や内容について（自由記述）

⑥ 今回の育心プログラムに参加して良かった点について（自由記述）

⑦ 今回の育心プログラムに参加して改善してほしい点について（自由記述）

⑧ 進路を考えるうえで悩んでいることについて（自由記述）

(3) 分析方法

それぞれの質問項目ごとに単純集計を行った。なお、本稿の目的は、各回で実施したアンケート結果をまとめ、学生のキャリアに対する支援のあり方を検討する基礎資料とすることであるため、Ⅱ-2-(2)で示した調査内容のうち、「② 現時点で関心のある福祉の仕事領域について」「④ 今回の育心プログラムは、就職活動を行う上で役に立ったか」「⑧ 進路を考えるうえで悩んでいることについて」を分析対象とした。

(4) 倫理的配慮

回答は自由意思であること、プライバシーは保護されること、得られたデータは数値化し個人が特定できないように処理をすること、適切に管理を行い、個人情報を保護すること、以上の内容を依頼文および口頭にて説明したうえで、アンケートの回答をもって同意が得られたこととした。

Ⅲ. アンケート結果と考察

本アンケートについて、各回の参加者数および回答者数などは表-1 の通である。

表-1　各回の参加者数および回答者数

	参加者数（人）	回答者数（人）	回答率（%）	内訳			
				1 年生	2 年生	3 年生	4 年生
第 1 回	61	46	77.0	3	5	38	0
第 2 回	67	56	83.6	9	1	45	1
第 3 回	43	39	90.7	9	0	6	24
第 4 回	45	45	100.0	2	0	43	0
第 5 回	38	33	86.8	5	5	23	0
第 6 回	58	51	87.9	0	0	58	0

1. 現時点で関心のある福祉の仕事領域について

以下は、各項目について、関心の度合いの変化を追ったものである。

まず、子ども領域であるが、「興味(関心)がある」または「とても興味(関心)はある」と回答した割合は各回とも 60%前後と高い傾向にあるにもかかわらず、6 回目になると 40%程度に落ち着いていることがわかる（図-1)。

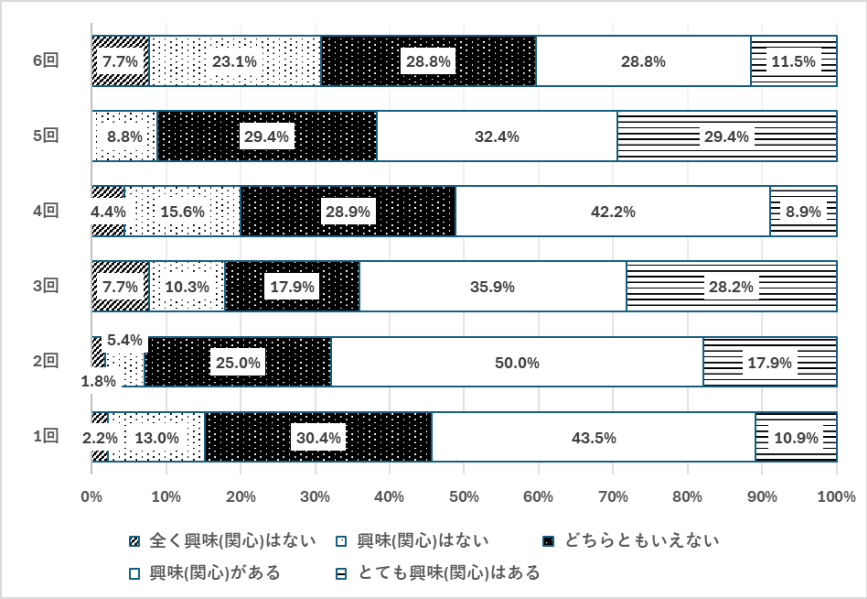

図-1　現時点で関心のある福祉の仕事領域について【子ども領域】

障害領域では、「興味(関心)がある」または「とても興味(関心)はある」と回答した割合は前半３回と第５回目が高い傾向にあり、特に３回目は80%近くに達している。これは、この回が障害者就労支援の講和だったことが影響しているといえる。しかし、６回目になると50%と６回の中で最も低い数値になっている（図-2)。

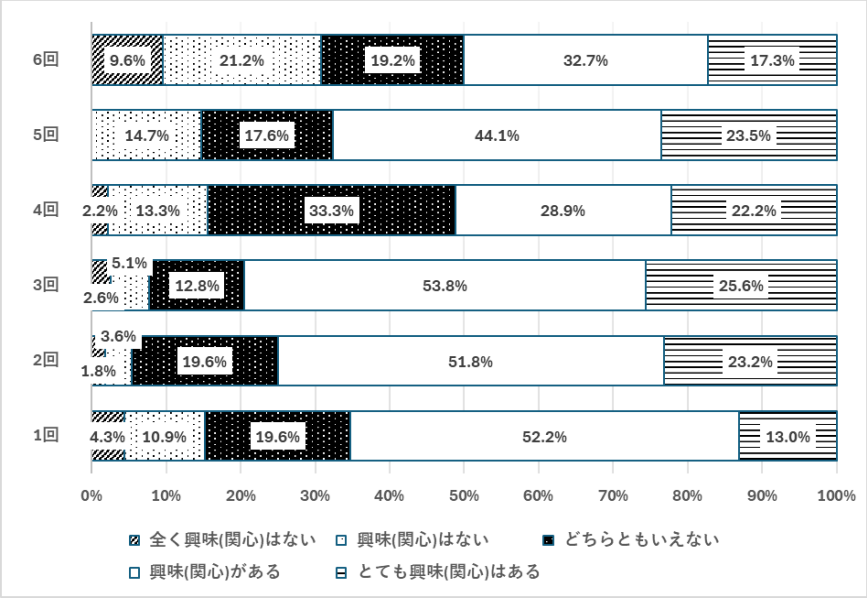

図-2　現時点で関心のある福祉の仕事領域について【障害領域】

高齢者領域での「興味(関心)がある」または「とても興味(関心)はある」と回答した割合は、第１回目

から第３回目までが60%～70%と高いが、後半３回は50%前後に落ち着いている（図-3）。

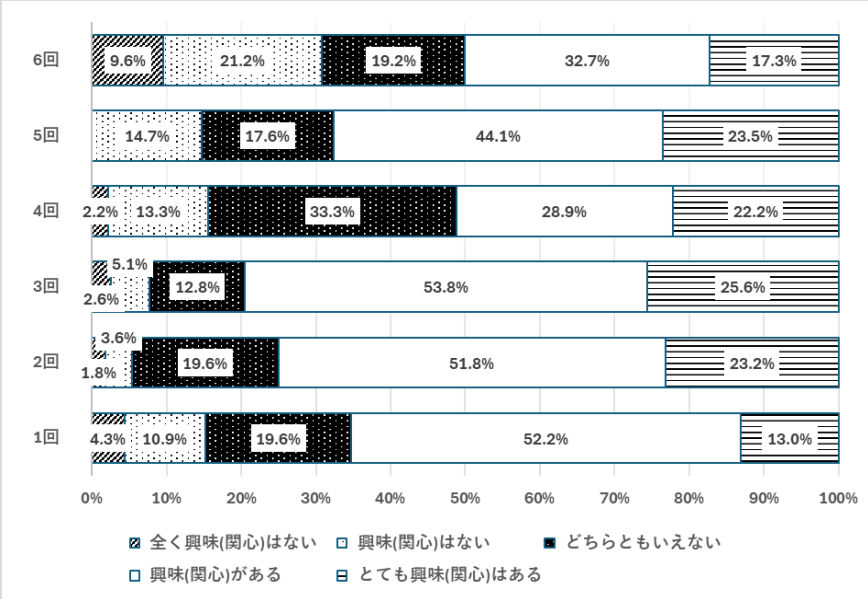

図-3　現時点で関心のある福祉の仕事領域について【高齢者領域】

保健医療領域での「興味(関心)がある」または「とても興味(関心)はある」と回答した割合は、他の領域よりも低い傾向にある（図-4）。これは、今年度、保健医療領域に関する講和がなかったことが要因としてあげられる。また、他の領域と異なり、回数を重ねるにつれて増加傾向にあるという特徴もある。

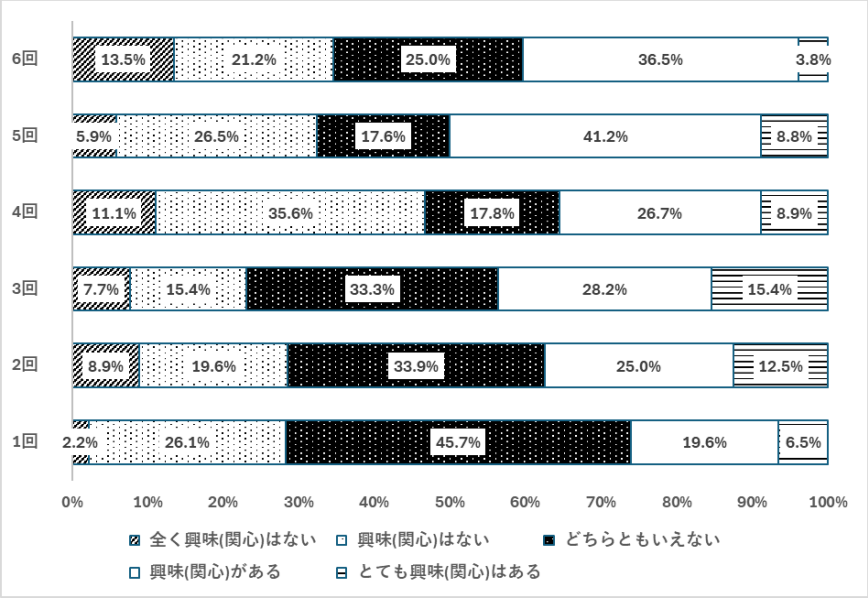

図-4　現時点で関心のある福祉の仕事領域について【保健医療領域】

地域福祉領域での「興味(関心)がある」または「とても興味(関心)はある」と回答した割合は、どの回

も60%以上あり、学生たちの関心の高さがうかがえる（図-5）。

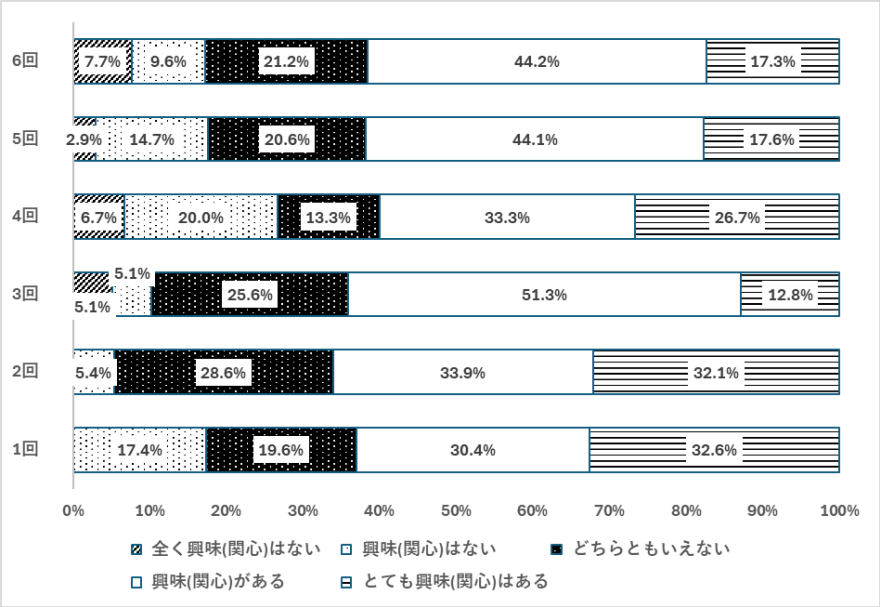

図-5　現時点で関心のある福祉の仕事領域について【地域福祉領域】

その他（一般就職を含む）については、全体として低い傾向にあった（図-6）。本学科は各福祉関連資格を取得し、福祉に関わる仕事に就職する学生が多いことが要因であったと推察する。

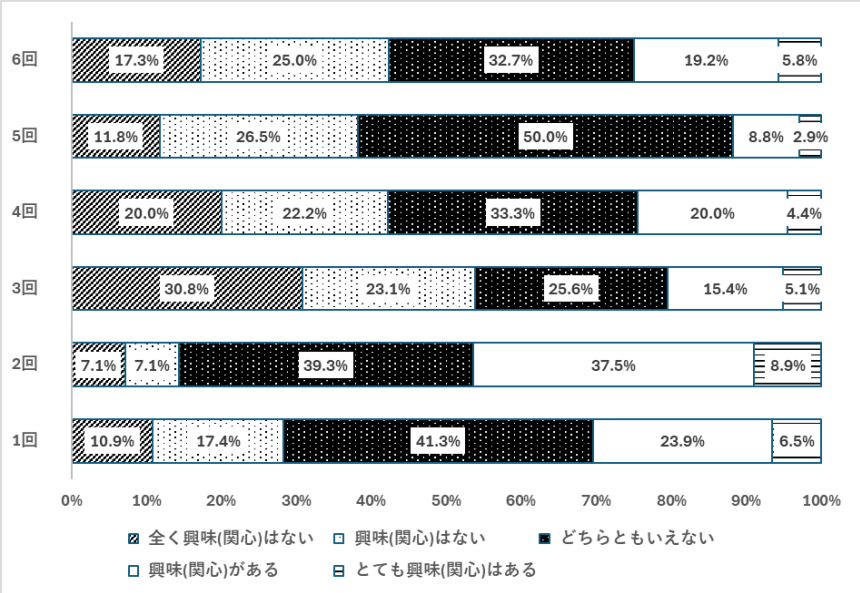

図-6　現時点で関心のある福祉の仕事領域について【その他（一般就職を含む）】

以上、福祉の各領域への学生の関心の変化からうかがえることは、次の点である。

①地域福祉領域への関心は、すべての回において安定して高い傾向にある。これは、学科本来の目的

である社会福祉士資格取得が影響しているといえる。

②第 6 回目における「興味（関心）がある」「とても興味（関心）はある」と答えた数値は、子ども40.3%、障害 50.0%、高齢者 50.0%と他の回の数値と比べて最も低くなっている。一方、学生の関心が低かった保健医療領域は、第6回目に子ども領域と同じ40.3%に達しており、この4領域に10%の差はあるものの概ね同程度に落ち着いた感がある。このことから、回を重ねるにしたがってこれらの領域の業務内容や職場に関する知識が増えたことにより、学生が自分の関心のある領域について具体的にイメージできるようになってきたのではないかと推測される。

③3 年生の参加の少なかった第 3 回・第 5 回を除いて、一般就職への関心が少なくなってきているのは、福祉の仕事への理解やイメージ、福祉職へ就職する覚悟ができてきたことを示す可能性が考えられる。

これらのことから、回を重ねるにしたがって、各福祉領域への理解が進み、就職を考える領域がある程度絞れてきたのではないかと推察できる。

2. 就職活動を行う上での育心プログラムの有用性について

それぞれの育心プログラムが、学生にとって就職活動を行う上で役に立ったかについて尋ねた。以下は、各項目について、各回の内容によって職業や進路などの選択に影響が与えるかを分析した。

「とても役に立った」または「役に立った」と回答した割合において、領域の選択（図-7）、職種の選択（図-8）、および事業所の選択（図-9）の全てで概ね役に立ったと回答していた。特に、第 6 回目は本学科 4 年生のうち就職が決まっている学生との意見交換を実施した。様々な領域（公務員、障害福祉、児童福祉、高齢福祉、医療福祉、医療福祉（精神）、地域福祉、一般）から、実際に行った就職活動の報告を受けた。そのため、どのように就職先を選んだのか、いつから就職活動を始めたのかなど具体的に就職に向けたイメージができたと推察できる。その結果、他の回よりも「とても役に立った」と回答した割合が高かったと思われる。

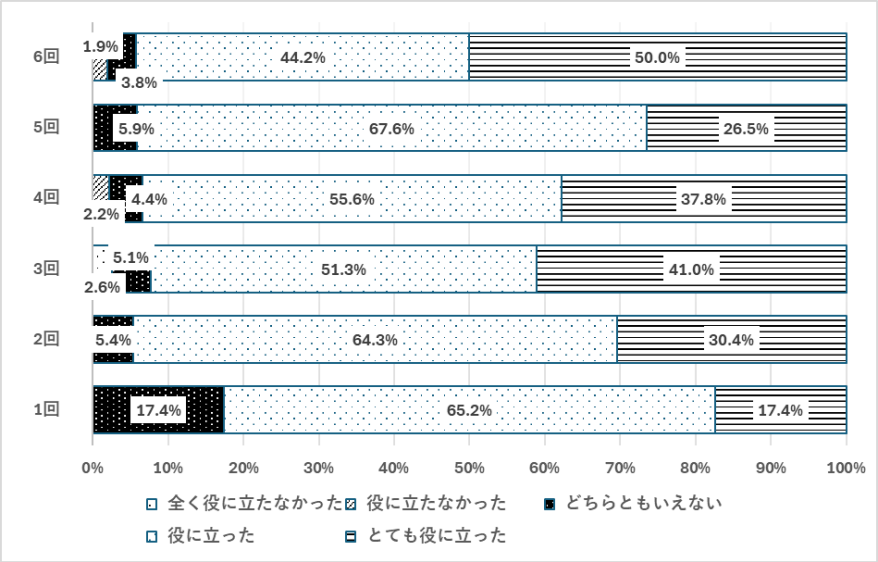

図-7　領域の選択

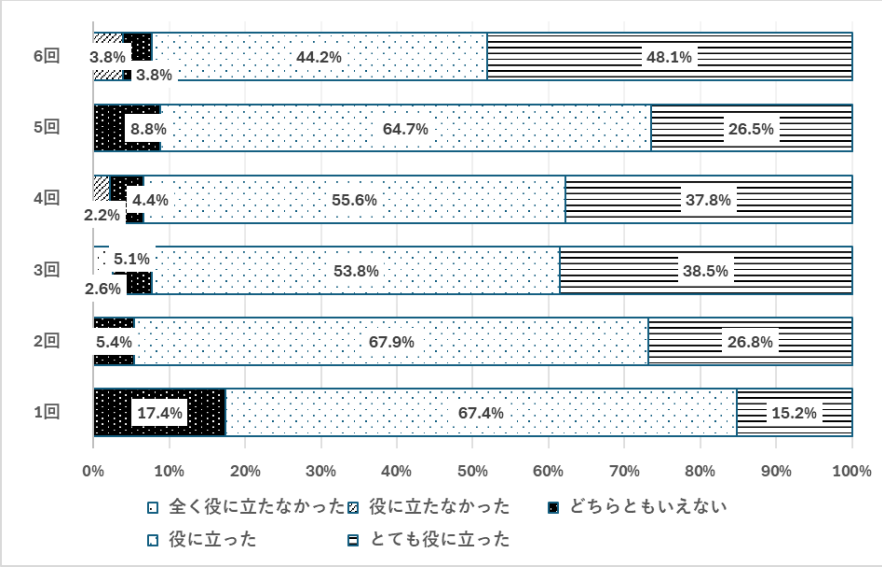

図-8　職種の選択

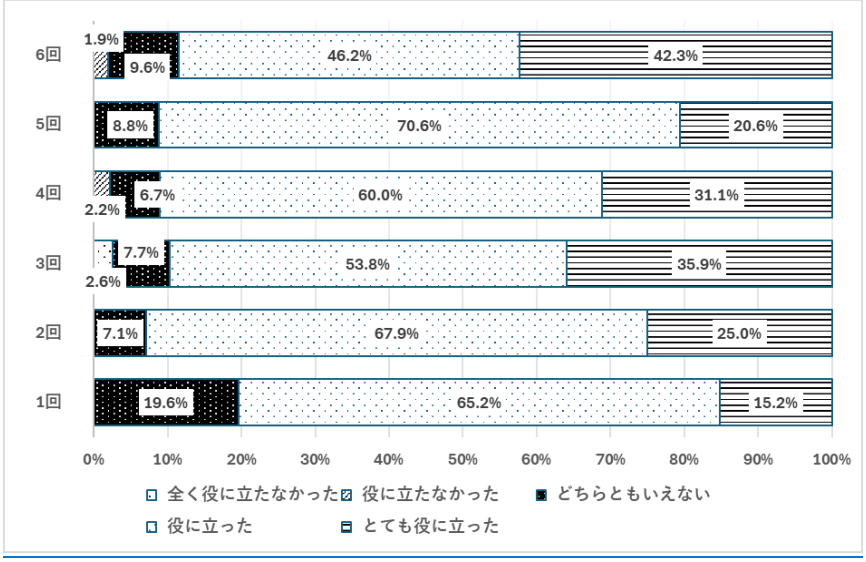

図-9　事業所の選択

3. 進路を考えるうえで悩んでいることについて

進路を考えるうえで悩んでいることについて、自由記述にて尋ねた。学生がどのようなことに悩んでいるのかの傾向を把握するために、自由記述の内容を分類した。分類するにあたり、自由記述の内容をキーワードごとに整理し、そのキーワードを類似する意味をもつグループに分けていくカテゴリ化を行った。カテゴリ化を行うにあたり、松田ら（2008）が作成した短縮版職業選択不安尺度（職業選択における不安を測定する尺度）、および同じく松田ら（2010）に作成した就職活動不安尺度（就職活動における不安を測定する尺度）の各因子を参考にした。

結果は表-2 の通り整理した。進路について何らかの不安を感じている人が 133 人（48.9%）で約半数の人であった。そのうち、「職業選択不安」が 91 人（68.4%）、「就職活動不安」が 36 人（27.1%）、「その他」が 6 人（4.5%）であり、主に 3 年生を対象に実施したため、職業選択に対する不安が多かった。なお、「その他」の不安は、国家試験の勉強方法などに関する内容であった。

また、「職業選択不安」のうち、“給与や休暇などがきちんと貰えるのか”“ワークライフバランスが心配”などの「職業移行不安」が 12 人（13.2%）、“なにが自分に合っているかがわからない”“どのような職種、どんな職場を選ぶべきか”などの「自己理解不安」が 44 人（48.4%）、“就職先をどうやって選んだらいいか”“県外就職か県内就職か”など「決定方略不安」が 32 人（35.2%）、“分野ごとでどんな違いがあるのか”など「職業理解不安」が 3 人（3.3%）であった。主に 3 年生が対象であったため、ある程度の職業理解はできているが、複数の資格取得を目指している学生も多く、まずはどの分野にするのかで迷い、その後分野が決まったとしても、どこに就職するのかで迷っている様子であった。

さらに、「就職活動不安」のうち、“就活の進め方について悩んでいた”の「サポート不安」が 1 人（2.8%）、

“早く内定もらって安心したい”などの「活動継続不安」が2人（5.6%）、“いつまでに何をすればいいか”“インターンに行く時間がない”などの「準備不足不安」が26人（72.2%）という不安を感じていた。なお、「その他」は漠然とした不安を感じている回答であった。

表-2　進路を考えるうえで悩んでいること(カテゴリ化後)

	度数（人）	% ※1		度数（人）	% ※2
職業選択不安	91	68.4	職業移行不安	12	13.2
			自己理解不安	44	48.4
			決定方略不安	32	35.2
			職業理解不安	3	3.3
	度数（人）	% ※1		度数（人）	% ※3
就職活動不安	36	27.1	アピール不安	0	0.0
			サポート不安	1	2.8
			活動継続不安	2	5.6
			試験不安	0	0.0
			準備不足不安	26	72.2
			その他	7	19.4
	度数（人）	% ※1			
その他	6	4.5			
	度数（人）	% ※4			
不安あり	133	48.9			
不安なし	139	51.1			
合計	272				

※1　何らかの「不安」を感じている人のうち、「職業選択不安」「就職活動不安」「その他」のいずれかをあげている人の割合

※2　「職業選択不安」を感じている人のうち、「職業移行不安」「自己理解不安」「決定方略不安」「職業理解不安」のいずれかをあげている人の割合

※3　「就職活動不安」を感じている人のうち、「アピール不安」「サポート不安」「活動継続不安」「試験不安」「準備不足不安」「その他」のいずれかをあげている人の割合

※4　全ての回答者のうち、「不安あり」「不安なし」いずれかの人の割合。なお「不安あり」は「職業選択不安」「就職活動不安」「その他」の何らかの不安を感じている人の総数である。

Ⅳ. まとめ

本稿は、2022 年度より実施しているキャリア教育を、2023 年度より、人間福祉学科 BMS の一つとして「学生のキャリアに対する関心を早期に高める」を目的として実施した実践報告である。筆者らの一人である河内ら（2023）の取り組みにおいても、ゲストスピーカーによる講義を実施した結果、学生のキャリアに対する理解度・関心度は向上しており、筆者らもそれらを引き継ぐ形で、BMS に取り組んだ。結果、各専門職等の講話や就職の決まった先輩の話を聴くことによって、それぞれの領域に関する興味・関心が高まるとともに、領域、職種および事業所の選択の選択に影響を与えていたことが読み取れた。引き続き、2024 年度も実施していきたい。

また、本調査にて「聞いてみたい領域や内容」について尋ねたところ、様々な回答を得た。その中には、より専門的・具体的な介護現場や保育現場などの要望もあり、どの領域を選定するのが学生の進路選択にとって効果的かを吟味する必要がある。これについては、各領域の担当教員と連携しながら、有意義なキャリア教育となるよう、さらに検討が求められる。今後も大学全体としてだけでなく、学科としてキャリア教育に関する内容を企画し、学生の就職支援をしていく必要がある。

文献

河内佑美，太原牧絵，坂井晶子　人間福祉学科におけるキャリア教育の実践と評価について　人間福祉研究，21，20-26，2023.

小松 智子, 内田 若希　福祉職への就職意思に影響を与える要因の質的検討　日本保健福祉学会誌 23 (1), 1-13, 2016.

こども家庭庁　令和 4 年度こども白書(仮称) 「令和 4 年度　少子化の状況及び少子化への対処施策の概況」報告書　https://www.cfa.go.jp/resources/white-paper/　（2024.3.12 閲覧）

松田侑子，永作稔，新井邦二郎　職業選択不安尺度の作成　筑波大学心理学研究，36，67-74，2008.

松田侑子，永作稔，新井邦二郎　大学生の就職活動不安が就職活動に及ぼす影響―コーピングに注目して―　心理学研究，80 (6)，512-519，2010.